

BB通信

10月 vol.12



×



関西秋季大会も終わり、今年も試合ができる期間は残りわずかとなってきました。これからは、練習メニューも、徐々に冬季の練習メニューに移行していきます。一見地味な練習が多いですが、この期間での選手の取り組みが、彼らの今後の大きな飛躍へつながっていくのだと思います。もちろん、今後の飛躍とは彼らの10年、20年後のことを含みます。選手の秋季大会での悔しい思いも受け止めながら、やはり大人は一步下がって彼らの取り組みを見守っていきたいところです。春の大会のことも意識をしながら、彼らの将来のことを第一に考え、これからもアプローチをしていきます。

「評価とは??」

コーチ 阪長 友仁

海外に長く在住していたせいか、日本で当たり前と思われていること、自身も当然と思っていたことに、ふと疑問を感じる事が結構な頻度であります。

その中の1つに、海外と日本の評価方法の違いというものがあります。

もちろん100対0ではないのですが、日本では相対的評価が重要視されている傾向があると思います。要するに他と比べてどうかという視点の評価です。

〇〇ちゃんは××君より点数が良い！△△君は□□君より守備がうまい！というのも相対的評価ですし、次の大会で●●チームに勝って優勝するぞ！ということも相対的評価の中で考えていることになります。

一方で、私の滞在経験の多くを占めるラテンアメリカでは絶対的評価を重視する傾向にあります。〇〇君は××ができる！△△君は□□のプレーができるようになった！指導者も保護者も子供をこのように評価します。しかも、楽観主義で良いことだけを取り上げます(笑)。

私自身も日本で生まれ育ち、この相対的評価の中で野球をしてきたのですが、ふと今立ち止まって考えてみると疑問を感じることも多々あります。

極端な例では、チームの中で一番うまくても周りが全然上手じゃないケースもあるかもしれませんが、大会で優勝してもどのチームもまったく良いチームではないというケースがあります。一方で、たとえ一番ではなくても、チームのみんながとんでもなくレベルが高ければその子の実力も相当高いものになります。たとえ、大会で負けてしまったとしても相手チームがものすごく良いチームで、そのチームと互角に戦える実力がある方が前者より自身らの実力も高いのでは??ということになります。

指導する側は通常、●●よりうまくなれ！次の大会で優勝するぞ！と、目の前にあるものと比べて相対的評価で指導した方が楽ちんです。一方で、絶対的評価とは見えない階段を上るようなもので、どこまでいけばゴールなのか、自分が今どの位置にいるのか、方向はあっているのか、試行錯誤の連続です。でも、この試行錯誤の中で学ぶこと、失敗して気づいて、また再度チャレンジを続けることに本当の成長があるのだと思います。

残念ながら、関西秋季大会では初戦で敗退となりました。もちろん子供たちは勝ちたい、指導者も勝たせてあげたい、その思いは常にあります。でも、それよりも大切なことは子供たち一人ひとりの絶対的な成長なのだ改めて思いますし、その成長を促していける環境作りにこれからも微力ながら貢献できればと思っています。

「厳守事項、守れていますか？」

コーチ 土井 幹大

堺ビッグボーイズでは厳守徹底事項を掲げています。

例えば、「挨拶の徹底！（感謝の気持ちもって）」や「大きな声で返事をする！（意思表示をする）」などがあり、南花台のメイン・サブグラウンドのバックネット裏に張り出しています。

なぜ厳守徹底事項があるかという、選手が社会に出るための大事な土台になると我々は考えているからです。「朝は自分で起床し参加！」これも厳守事項の中に入っています。

朝、子どもが起きないから仕方なく起こして練習に向かわせているということはないでしょうか？起こしてしまうことは簡単なことですが、子どものことを考えるのなら我慢して起きるのを待ってみてください。それで練習に何度遅れても構いません。実際、私が現役のときは寝坊をしてくる選手がたくさんいました。それで後の練習ができなくなることや試合に出られなくなることはありません。

このようなことは小さなことですが彼らの将来にとって非常に大切なことだと思います。言ってやらせることは簡単なことですが、グラウンドでも私生活でも自立していけるよう長い目で見守っていきましょう。

「勉強も変化を見守る」

コーチ 岩井 健一

ほとんどの学校で中間テストが終わり、選手もそれぞれの結果に一喜一憂(?)しているのではないかと思います。

私は塾で選手の自習を見ているのですが、こちらから、ああしろこうしろと勉強のやり方を教えることはなるべくしないようにしています。もちろん、選手が自分から聞いてきたことには答えますし、基本的な勉強の進め方はこちらで事前に伝えます。しかし、基本的には選手の取り組みの変化をじーっと見るようにしています。すると様々な変化が見えてきます。

前回悪かった教科に力を入れて勉強している選手、前回と違い何度も間違ったところをやり直している選手、前よりも提出物を早めに終わらせている選手、前回とあまり取り組みが変わらない選手など様々です。大切にしているのは、それらを見かけてもその場で声をかけないことです。大きくやり方を間違えなければ、勉強はやればやるほど結果が出る単純なものです。自分の取り組みが足りなければ、結果が素直に点数として表れて来ます。まずはそれを選手に身を持って体験してもらい、その悔しさ、嬉しさをもとに次の段階につなげるようにしています。

ある程度時間をかけて勉強したのに、点数がいまひとつ上がらなかったある選手はこう言います。「勉強したのに、全然できませんでした…。やっぱり僕は頭が悪いんですよ…。」

こう言ってきたら、こっちのもんです。(笑)選手の取り組みを認めた上で、本当に身になる勉強ができていたのか、選手に問いかけていきます。

間違った問題をチェック、理解して、何も見ずにそれを解けるようになっていたのか。暗記科目は、すぐに答えが出てくるようになるまで繰り返し勉強したのか。それらを問いかけていくと、たいていは「できていませんでした！」という答えが返ってきます。すると、また次回から取り組みが変わってきます。その繰り返しで、塾生のほとんどは徐々に点数を上げていってくれています。

野球も勉強も、いい習慣、取組みをしても、すぐに結果が出ないこともあります。指導者は目の前の結果をとかやく言うのではなく、選手の取り組みをしっかりと見て、選手がくじけそうな時は背中を押してあげることが大切なのだと思います。野球よりもいっそう目の前の結果がわかりやすく、気になってしまう勉強かと思いますが、こちらも選手の取り組みを温かく見守っていただければと思います。